

2018（平成30）年度下半期展覧会スケジュール



小杉放菴記念日光美術館において、2018（平成30）年度下半期に開催される展覧会の予定です。

小杉放菴記念日光美術館

11月12日～16日 展示替休館

2018年11月17日[土]～12月24日[月・振休]

毎週月曜日休館(祝日のときは開館し、その翌日を休館)

日光市ふくろうの森 手塚登久夫石彫館開館記念 彫刻家の眼——手塚登久夫コレクション展

◆ 日光市出身の彫刻家・手塚登久夫^{てづか とくお}(1938-2015)のアトリエが、2018年11月に「日光市ふくろうの森 手塚登久夫石彫館」として開館することを記念して、手塚登久夫が生前収集してきたコレクションの中から、版画作品を中心に紹介します。栃木県ゆかりの版画家・川上澄生や古川龍生をはじめ、楊洲周延、大野麦風、斎藤清、長谷川潔、浜口陽三、若林奮といった近現代の作家から無名の作品まで、版画の内容は多岐に渡っています。鼻をモチーフとした石彫で知られる手塚登久夫が、何に惹かれ、何をみつめていたのか、彫刻家の眼を通して集めたコレクションから、その一端に迫ります。

12月25日～31日 展示替休館／年末休館

2019年1月1日[火・祝]～2月17日[日]

毎週月曜日休館(祝日のときは開館し、その翌日を休館)

1月7日～9日は年始休館

放菴の絵ができるまで ——初公開の寫生画を中心に

◆ 当館の重要なコレクションの一つに「小杉放菴の寫生画」があります。「寫生画」とは、いわゆるデッサンのことです。放菴が晩年を過ごした妙高高原の鳥や植物を中心に、人物、旅先の風景など、約1,200点にのぼる作品を所蔵しています。本展は、初公開の寫生画を中心に、風景・顔・動物・植物の4つのジャンルに分け、完成作と共に列べることにより、放菴の作品ができるまでの過程を追います。さらに、放菴のこぼれ、友人の画家のこぼれを手がかりに、放菴の「写実」観を明らかにします。

2月18日～3月22日 施設メンテナンス・展示替休館

2019年3月23日[土]～5月12日[日]

毎週月曜日休館(祝日のときは開館し、その翌日を休館)

4月30日は祝日法により開館

ブラティスラヴァ世界絵本原画展 BIB で出会う絵本のいま

◆ ブラティスラヴァ世界絵本原画展(略称 BIB=Biennial of Illustrations Bratislava)は、スロヴァキア共和国の首都ブラティスラヴァで2年毎に開催される世界最大規模の絵本原画コンクールです。実際に出版された絵本の原画を審査対象とし、芸術性が高い作品や実験的でユニークな作品が集まることでも知られています。2017年9月に開催された BIB 2017では、49か国から、373組の絵本作家より2,657点の原画が集まり、日本人としては荒井真紀が《たんぼぼ》で金のリンゴ賞を、ミロコマチコが《けもののおいしがしてきたぞ》で金牌を受賞しました。

本展では、BIB 2017の出品作品から、受賞作品を中心に、絵本原画約200点と絵本および関連資料を取り上げ、表現や技法の多様化が進む絵本のイラストレーションのいまを展覧します。